



あなたの、いちばんであるために。2015. 1 ~ 3月期 No. 029

やましん

中小企業景況レポート

山梨信用金庫 総合企画部
〒400-0032 甲府市中央 1-12-36
TEL 055-225-0213
ホームページアドレス
<http://www.yamasin.jp/>

2015. 4.15 発行

■ 調査要領 ■

1. 調査対象
当金庫営業エリア内の取引先中小企業 120社
2. 調査時期・期間
調査時期：2015年3月2日～6日
調査期間：今期実績 2015年1月～3月
来期見通し 2015年4月～6月
3. 調査方法
当金庫職員による訪問聞き取り調査
4. 分析方法
DIを中心に分析

■ 調査対象と回答状況 ■

業種	企業数	回答数	回答率
製造業	30	30	100%
卸売業	15	15	100%
小売業	15	14	93%
サービス業	29	29	100%
建設業	23	23	100%
不動産業	8	8	100%
合計	120	119	99%

※ 国中地区 73社、東部地区 30社、相模原市周辺地区 17社

※ DI (Diffusion Index) とは

各質問事項で「良い(増加)」とした企業割合 - 「悪い(減少)」とした企業割合の構成比との差(判断DI)による分析です。
例えば、回答が以下のような場合のDIの算出方法は、次のとおりです。

(例) 「良い・やや良い」の回答が50%、「変わらず」の回答が30%、「悪い・やや悪い」の回答が20%の場合

DIは $50「良い・やや良い」 - 20「悪い・やや悪い」 = +30$ となります。DI値が高いほど景気が良いことを示しています。

業況判断DI

業種	前期	今期実績			来期見通し		
		良い	悪い	DI	良い	悪い	DI
総合	0.8	28.6	26.9	1.7	19.3	24.4	▲5.0
製造業	20.0	30.0	33.3	▲3.3	16.7	26.7	▲10.0
卸売業	▲40.0	33.3	33.3	0.0	20.0	33.3	▲13.3
小売業	▲13.3	21.4	28.6	▲7.1	14.3	42.9	▲28.6
サービス業	3.4	31.0	20.7	10.3	24.1	13.8	10.3
建設業	13.6	26.1	17.4	8.7	13.0	21.7	▲8.7
不動産業	▲14.3	25.0	37.5	▲12.5	37.5	12.5	25.0

業種別景気天気図

業種	前期	今期	見通し
総合			
製造業			
卸売業			
小売業			
サービス業			
建設業			
不動産業			

※本レポートは、標記時点における情報提供を目的としております。また、掲載資料は、正確性・完全性を保証するものではありません。

31以上	11~30	10~▲10	▲11~▲30	▲30未満

概況

<業況・売上・収益>

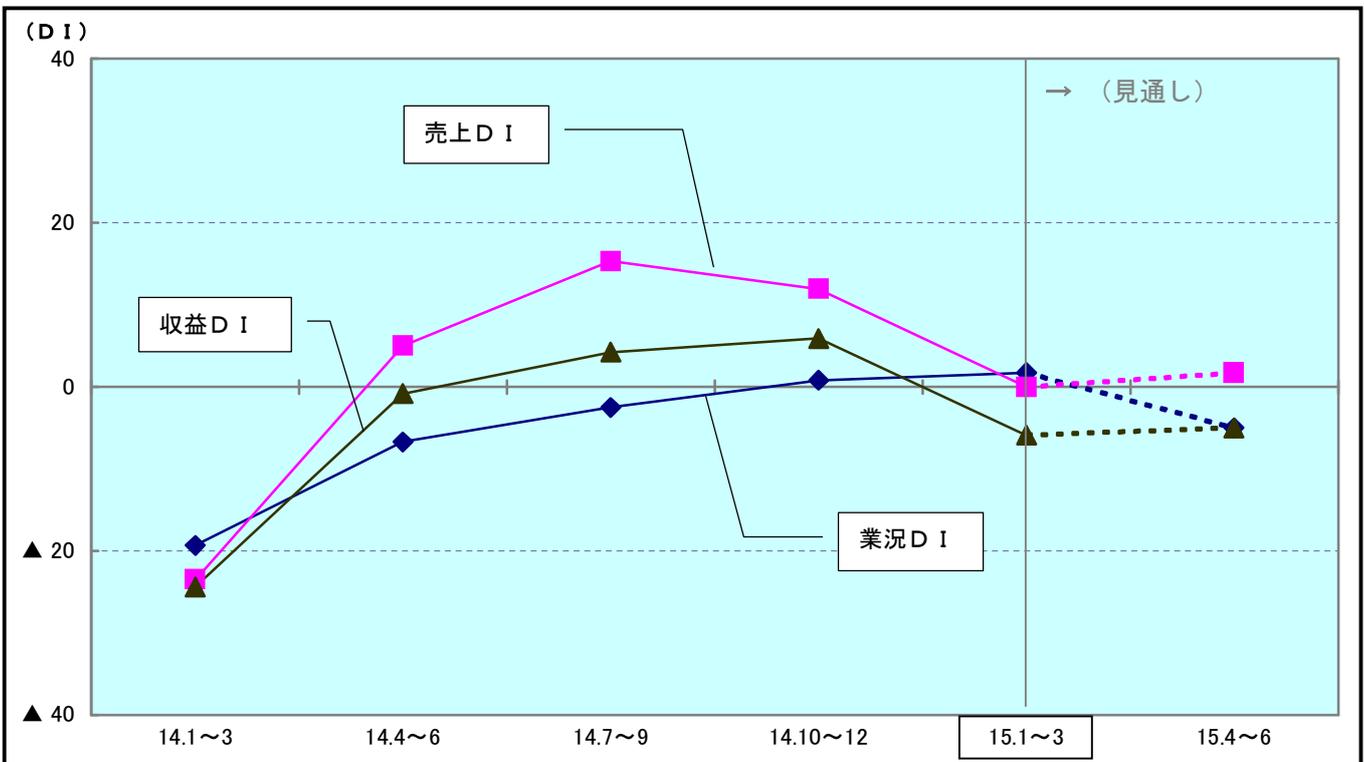
今期（1～3月）の全業種総合の業況判断D I（「良い」－「悪い」）は、前期（10～12月）の0.8から0.9ポイント改善の1.7となりました（前年同期比21.0ポイント改善）。業種別にみると、製造業・建設業で悪化したものの、その他の業種で改善しております。

また、売上D I（「増加」－「減少」）は、小売業・サービス業・建設業で改善したものの、その他の業種で悪化したことから、前期比11.9ポイント悪化の0.0となっています（前年同期比23.5ポイント改善）。収益D I（「増加」－「減少」）は、小売業・サービス業・建設業で改善したものの、その他の業種で悪化したことから前期比11.8ポイント悪化の▲5.9となっています（前年同期比18.5ポイント改善）。

全業種総合の来期見通し（4～6月）は、全体の景況感を表す業況判断D Iが▲5.0と、今期実績比6.7ポイントの悪化を見込んでいます。また、売上D Iは1.7と、同比1.7ポイントの改善、収益D Iは▲5.0と、同比0.9ポイントの改善を見込んでおります。業種別の業況判断D Iは、不動産業で改善を見込んでいるものの、製造業・卸売業・小売業・建設業で悪化を見込んでおります。

■ 業況・売上・収益D Iの時系列推移

	14.1～3	14.4～6	14.7～9	14.10～12	15.1～3	15.4～6 見通し
業況 D I	▲19.3	▲6.7	▲2.5	0.8	1.7	▲5.0
売上 D I	▲23.5	5.0	15.3	11.9	0.0	1.7
収益 D I	▲24.4	▲0.8	4.2	5.9	▲5.9	▲5.0



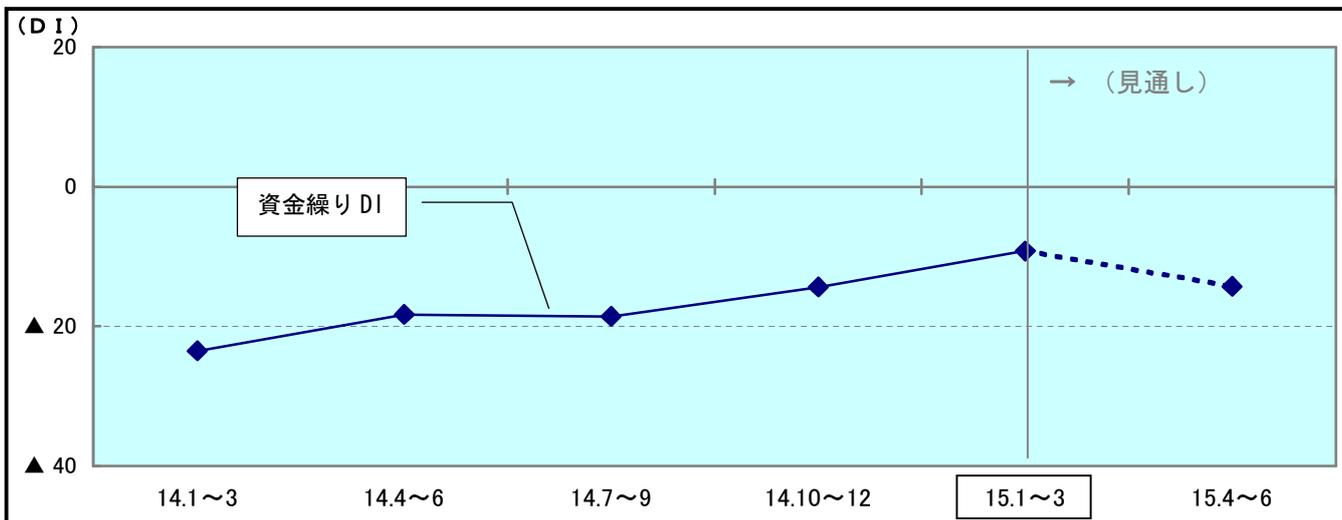
<資金繰り>

資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）は▲9.2と、前期比5.2ポイントの改善となりました（前年同期比14.3ポイント改善）。

また、来期の資金繰りDIは▲14.3と、今期実績比5.1ポイントの悪化を見込んでいます。

■ 資金繰りDIの時系列推移

	14.1~3	14.4~6	14.7~9	14.10~12	15.1~3	15.4~6 見通し
資金繰りDI	▲23.5	▲18.3	▲18.6	▲14.4	▲9.2	▲14.3



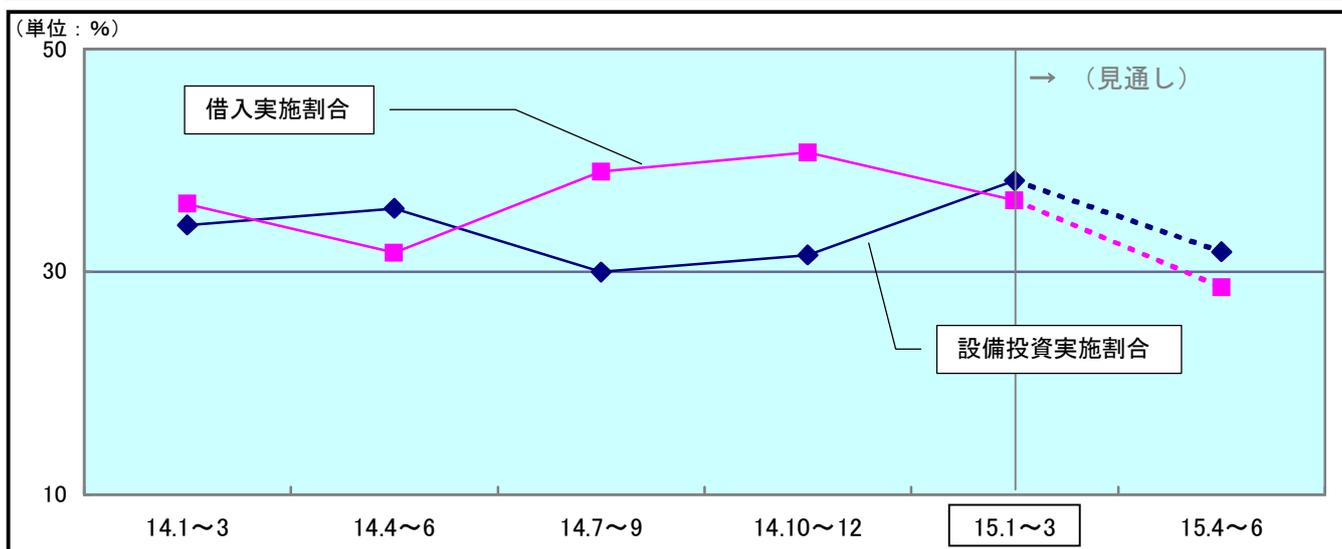
<設備投資・借入動向>

不動産業を除いた設備投資実施企業割合は38.2%と、前期比6.7ポイント上昇しております（前年同期比4.0ポイント上昇）。また、来期の設備投資実施予定企業割合は31.8%と今期実績比6.4ポイントの低下を見込んでいます。

全業種総合の借入実施企業割合は36.4%と、前期比4.3ポイント低下しております（前年同期比0.3ポイント上昇）。また、来期の借入実施予定企業割合は28.6%と、今期実績比7.8ポイントの低下を見込んでいます。

■ 設備投資・借入実施動向の時系列推移

	14.1~3	14.4~6	14.7~9	14.10~12	15.1~3	15.4~6 見通し
設備投資実施割合	34.2%	35.7%	30.0%	31.5%	38.2%	31.8%
借入実施割合	36.1%	31.7%	39.0%	40.7%	36.4%	28.6%



【製造業】

今期の業況判断D Iは▲3.3と、前期（10～12月）と比べて23.3ポイント悪化となりました（前年同期比7.4ポイント改善）。なお、売上D Iは前期比33.3ポイント悪化の6.7、収益D Iは同比30.0ポイント悪化の▲3.3とすべてのD Iで悪化となっております。

来期（4～6月）の業況判断D Iは▲10.0と、今期実績比6.7ポイント悪化を見込んでいます。また、売上D Iは同比横ばいの6.7、収益D Iは同比6.7ポイント悪化の▲10.0を見込んでいます。

今期の資金繰りD Iは、前期比3.3ポイント悪化の▲10.0、来期は今期実績比3.3ポイント悪化の▲13.3を見込んでいます。

■経営上の問題点（）内は前回順位

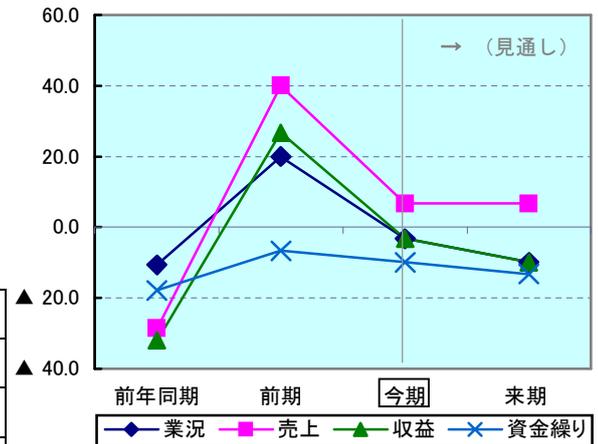
1	売上の停滞・減少(1)	46.7%
	利幅の縮小(1)	46.7%
3	原材料高(3)	26.7%
	販売納入先からの値下げ要請(5)	26.7%

■当面の重点経営施策

1	販路の拡大(2)	63.3%
	経費の節減(1)	56.7%
3	新製品・技術の開発(3)	26.7%
	情報力の強化(4)	26.7%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲10.7	20.0	▲3.3	▲10.0
売上	▲28.6	40.0	6.7	6.7
収益	▲32.1	26.7	▲3.3	▲10.0
資金繰り	▲17.9	▲6.7	▲10.0	▲13.3



【卸売業】

今期の業況判断D Iは0.0と、前期（10～12月）と比べて40.0ポイント改善となりました。（前年同期比53.3ポイント改善）。また、売上D Iは前期比53.3ポイント悪化の▲40.0、収益D Iは同比26.6ポイント悪化の▲33.3となっております。

来期（4～6月）の業況判断D Iは▲13.3と、今期実績比13.3ポイントの悪化を見込んでいます。また、売上D Iは同比53.3ポイント改善の13.3、収益D Iは同比33.3ポイント改善の0.0を見込んでおります。

今期の資金繰りD Iは、前期比6.7ポイント改善の▲20.0、来期は今期実績比13.3ポイント悪化の▲33.3を見込んでいます。

■経営上の問題点（）は前回順位

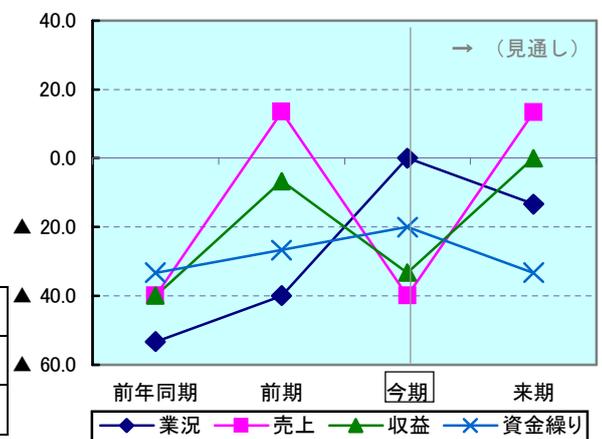
1	売上の停滞・減少(1)	66.7%
	仕入先からの値上げ要請(5)	33.3%
2	流通経路の変化による競争の激化(5)	33.3%

■当面の重点経営施策

1	販路の拡大(1)	80.0%
	経費の節減(2)	40.0%
2	品揃えの充実(3)	40.0%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲53.3	▲40.0	0.0	▲13.3
売上	▲40.0	13.3	▲40.0	13.3
収益	▲40.0	▲6.7	▲33.3	0.0
資金繰り	▲33.3	▲26.7	▲20.0	▲33.3



【小売業】

今期の業況判断D Iは▲7.1と、前期（10～12月）と比べて6.2ポイント改善となりました。（前年同期比32.9ポイント改善）。売上D Iは同比14.7ポイント改善の21.4、収益D Iは同比1.0ポイント改善の14.3とすべてのD Iで改善となっております。

来期（4～6月）の業況判断D Iは▲28.6と、今期実績比21.5ポイント悪化を見込んでいます。売上D Iは同比35.7ポイント悪化の▲14.3、収益D Iは同比42.9ポイント悪化の▲28.6とすべてのD Iで悪化を見込んでいます。

今期の資金繰りD Iは、前期比5.3ポイント改善の▲21.4、来期は今期実績比7.2ポイント悪化の▲28.6を見込んでいます。

■経営上の問題点（）は前回順位

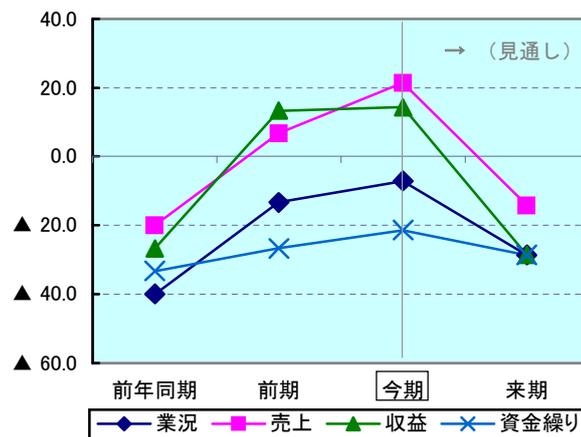
1	売上の停滞・減少(1)	42.9%
2	同業者間の競争激化(2)	35.7%
3	利幅の縮小(3)	28.6%
	仕入先からの値上げ要請(3)	28.6%

■当面の重点経営施策

1	経費の節減(1)	42.9%
	宣伝・広告強化(2)	42.9%
3	教育訓練の強化(2)	35.7%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲40.0	▲13.3	▲7.1	▲28.6
売上	▲20.0	6.7	21.4	▲14.3
収益	▲26.7	13.3	14.3	▲28.6
資金繰り	▲33.3	▲26.7	▲21.4	▲28.6



【サービス業】

今期の業況判断D Iは10.3と、前期（10～12月）と比べて6.9ポイント改善となりました（前年同期比33.6ポイント改善）。売上D Iは同比10.3ポイント改善の0.0、収益D Iは同比6.9ポイント改善の0.0とすべてのD Iで改善となっております。

来期（4～6月）の業況判断D Iは10.3と、今期実績比横ばいを見込んでいます。また、売上D Iは同比13.8ポイント改善の13.8、収益D Iは同比13.8ポイント改善の13.8を見込んでいます。

今期の資金繰りD Iは、前期比3.5ポイント改善の▲10.3となりました。来期は今期実績比10.3ポイント改善の0.0を見込んでいます。

■経営上の問題点（）は前回順位

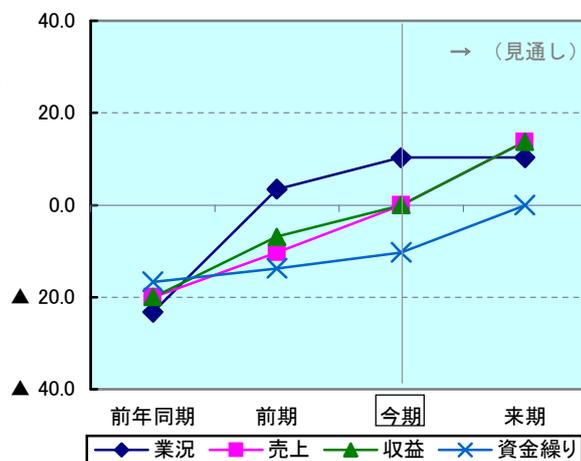
1	売上の停滞・減少(1)	41.4%
2	人手不足(4)	27.6%
	同業者間の競争の激化(4)	27.6%

■当面の重点経営施策

1	経費の節減(1)	58.6%
2	販路の拡大(3)	51.7%
3	人材の確保(3)	31.0%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲23.3	3.4	10.3	10.3
売上	▲20.0	▲10.3	0.0	13.8
収益	▲20.0	▲6.9	0.0	13.8
資金繰り	▲16.7	▲13.8	▲10.3	0.0



【建設業】

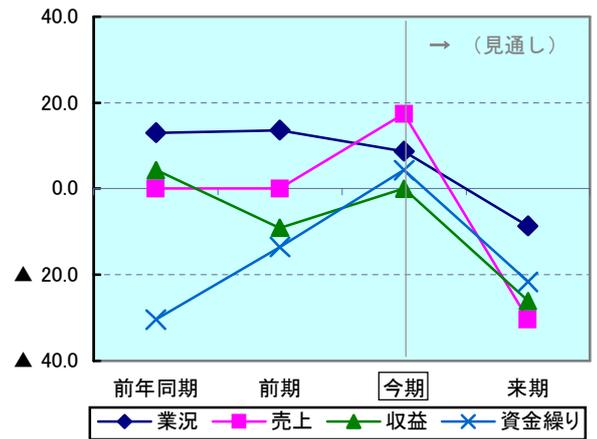
今期の業況判断DIは8.7と、前期（10～12月）と比べて4.9ポイント悪化となりました（前年同期比4.3ポイント悪化）。また、売上DIは前期比17.4ポイント改善の17.4、収益DIは同比9.1ポイント改善の0.0となっております。

来期（4～6月）の業況判断DIは▲8.7と、今期実績比▲17.4ポイント悪化を見込んでおります。また、売上DIは同比47.8ポイント悪化の▲30.4、収益DIは同比26.1ポイント悪化の▲26.1を見込んでいます。

今期の資金繰りDIは、前期比17.9ポイント改善の4.3、来期は今期実績比26.0ポイント悪化の▲21.7を見込んでいます。

■主要DIの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	13.0	13.6	8.7	▲8.7
売上	0.0	0.0	17.4	▲30.4
収益	4.3	▲9.1	0.0	▲26.1
資金繰り	▲30.4	▲13.6	4.3	▲21.7



■経営上の問題点 () は前回順位

1	利幅の縮小 (2)	47.8%
2	同業者間の競争の激化 (2)	43.5%
3	下請の確保難 (1)	26.1%
	売上の停滞・減少 (5)	26.1%

■当面の重点経営施策

1	経費の節減 (2)	43.5%
	技術力の強化 (3)	40.9%
3	情報力の強化 (4)	39.1%

【不動産業】

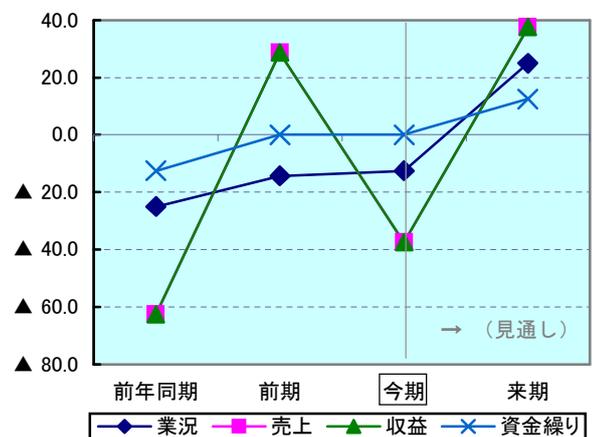
今期の業況判断DIは▲12.5と、前期（10～12月）と比べて1.8ポイント改善となりました（前年同期比12.5ポイント改善）。売上DIは前期比66.1ポイント悪化の▲37.5、収益DIは同比66.1ポイント悪化の▲37.5となっております。

来期（4～6月）の業況判断DIは25.0と、今期実績比37.5ポイント改善を見込んでおります。売上DIは同比75.0ポイント改善の37.5、収益DIは同比75.0ポイント改善の37.5を見込んでいます。

今期の資金繰りDIは、前期比横ばいの0.0、来期は今期実績比12.5ポイント改善の12.5を見込んでいます。

■主要DIの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲25.0	▲14.3	▲12.5	25.0
売上	▲62.5	28.6	▲37.5	37.5
収益	▲62.5	28.6	▲37.5	37.5
資金繰り	▲12.5	0.0	0.0	12.5



■経営上の問題点 () は前回順位

1	商品物件の不足 (3)	50.0%
2	利幅の縮小 (1)	37.5%
	人手不足 (2)	37.5%
	売上の停滞・減少 (1)	37.5%
	大手企業との競争の激化 (5)	37.5%

■当面の重点経営施策

1	経費の節減 (1)	62.5%
2	宣伝・広告の強化 (3)	50.0%
3	情報力強化 (1)	37.5%
	販路の拡大 (3)	37.5%
	人材の確保 (5)	37.5%

<地区別D I の状況>

	国 中 地 区				東 部 地 区				相 模 原 市 周 辺 地 区			
	前年同期	前期	今期	来期	前年同期	前期	今期	来期	前年同期	前期	今期	来期
業況D I	▲22.5	▲8.7	▲1.4	▲2.9	▲23.3	13.3	16.7	▲10.0	0.0	17.6	0.0	▲11.8
売上D I	▲26.8	11.6	1.4	2.9	▲20.0	6.7	10.0	0.0	▲29.4	17.6	▲5.9	▲5.9
収益D I	▲22.5	2.9	▲4.3	▲5.7	▲33.3	6.7	3.3	▲13.3	▲17.6	11.8	▲11.8	5.9

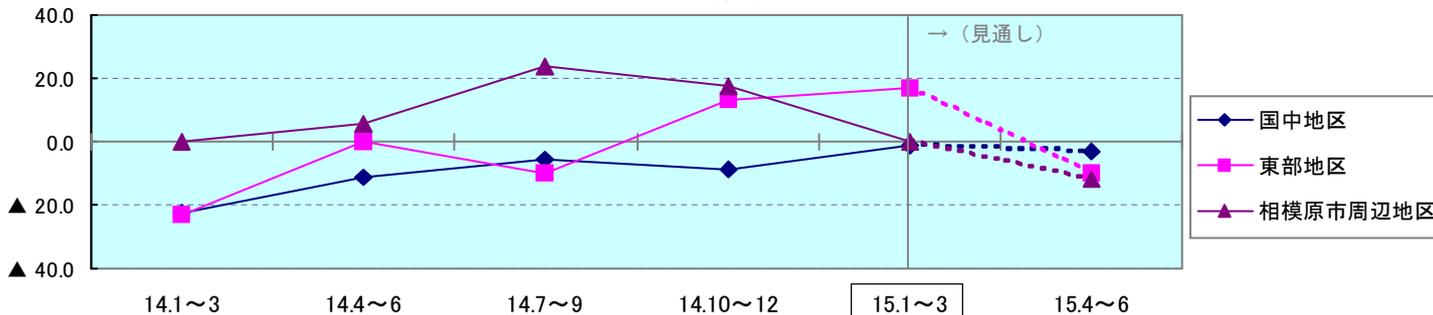
国中地区の状況は、業況判断D Iが▲1.4と、前期（10～12月）の▲8.7から7.3ポイントの改善となりました（前年同期比21.1ポイント改善）。また、売上D Iは前期比10.2ポイント悪化の1.4、収益D Iは同比7.2ポイント悪化の▲4.3となりました。なお、来期（4～6月）の業況判断D Iは今期実績比1.5ポイント悪化の▲2.9を見込んでいます。

東部地区の状況は、業況判断D Iが16.7と、前期の13.3から3.4ポイントの改善となりました（前年同期比40.0ポイント改善）。また、売上D Iは前期比3.3ポイント改善の10.0、収益D Iは同比3.4ポイント悪化の3.3となりました。なお、来期の業況判断D Iは▲10.0と今期実績比26.7ポイントの悪化を見込んでいます。

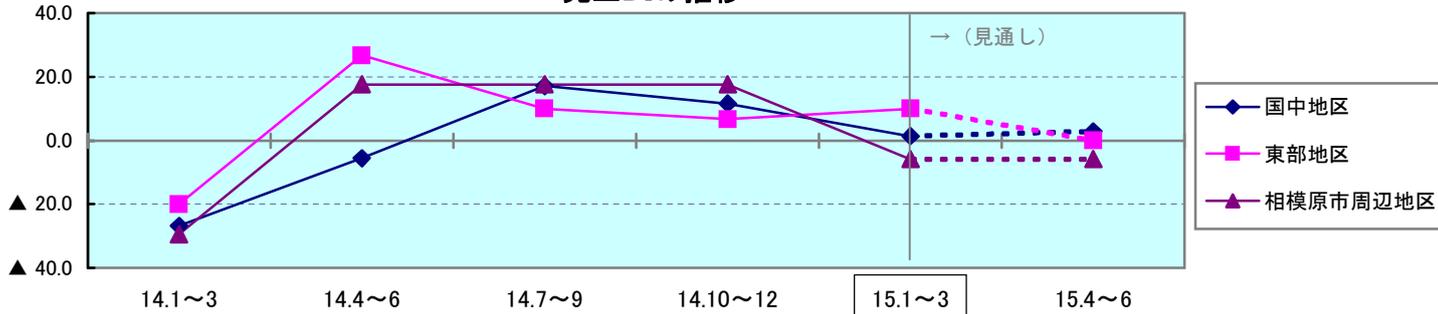
相模原市周辺地区の状況は、業況判断D Iが0.0と、前期の17.6から17.6ポイントの悪化となりました（前年同期比横ばい）。また、売上D Iは前期比23.5ポイント悪化の▲5.9、収益D Iは同比23.6ポイント悪化の▲11.8となりました。なお、来期の業況判断D Iは▲11.8と今期実績比11.8ポイントの悪化を見込んでいます。

地区別に見た景況感は、国中地区、東部地区で改善となりました。なお、来期についてはすべての地区で悪化を見込んでおります。

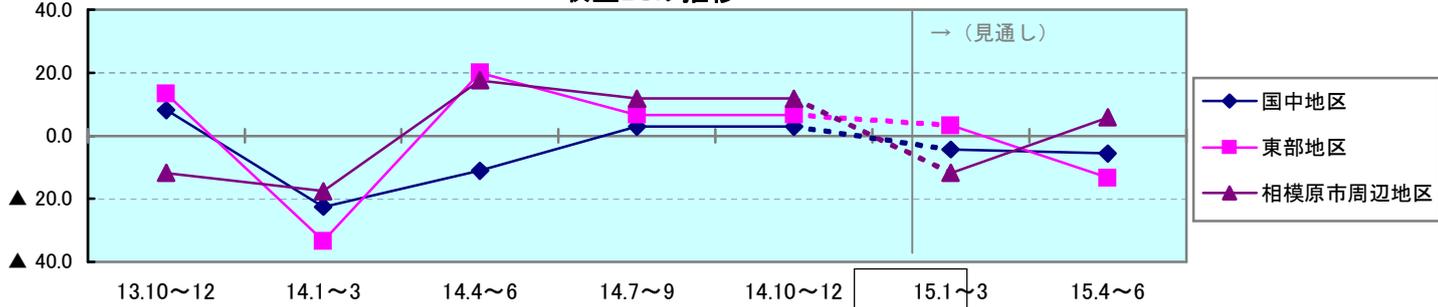
業況判断DIの推移



売上DIの推移



収益DIの推移

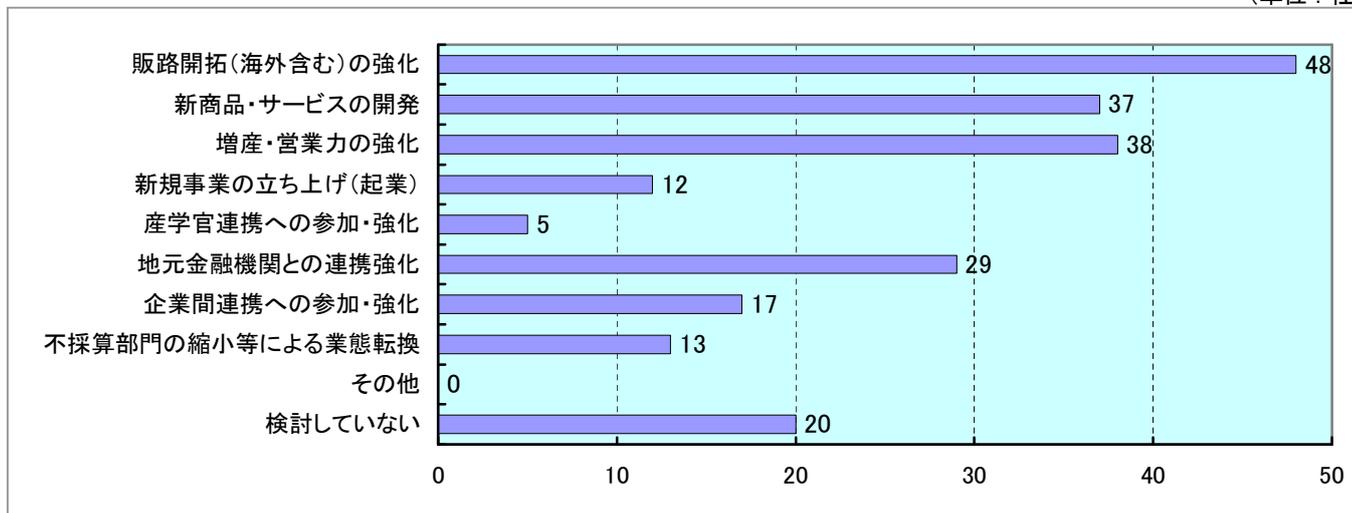


特別調査

「まち・ひと・しごと創生」と中小企業

◆2014年12月27日に、政府から、地方創生のための「まち・ひと・しごと」にかかるビジョンと戦略が公表されました。「地方における安定した雇用（しごと）を創出する」という基本目標のなかで、「力強い地域産業の競争力強化」の必然性が示されています。貴社における新たな「しごと」づくりについて、お答えください。（回答企業数：119社）

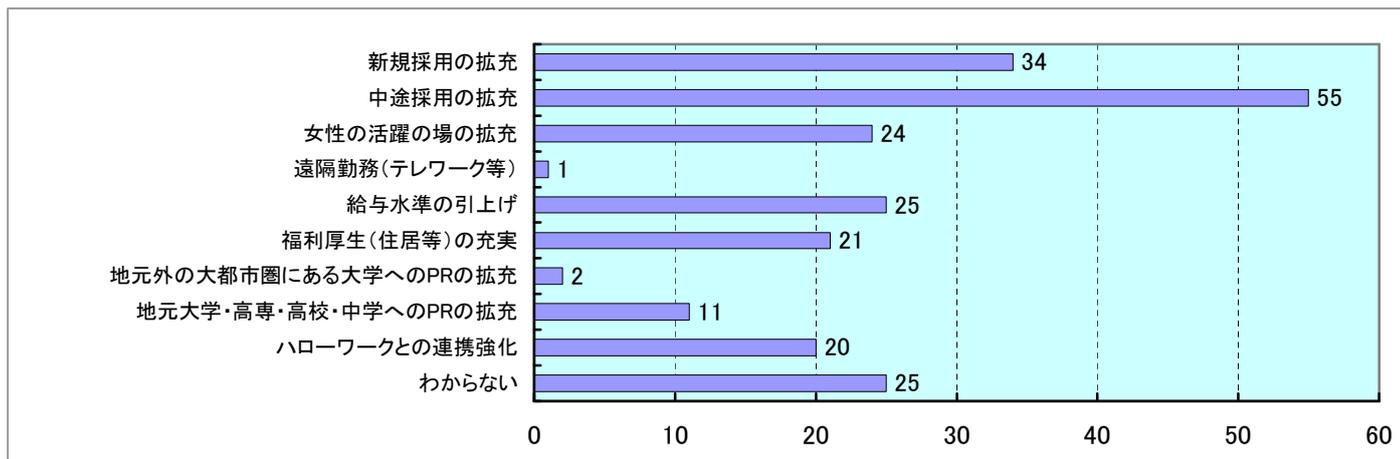
（単位：社）



新たな「しごと」づくりについては、「検討している」と回答した企業が99社（83.1%）と「検討していない」と回答した企業の20社（16.8%）を大きく上回りました。検討している内容としては、「販路開拓（海外含む）の強化」との回答が48社（40.3%）と最も多く、次いで「増産・営業力の強化」が38社（31.9%）、「新商品・サービスの開発」が37社（31.0%）と続いております。

◆ビジョンと戦略では、「地方への新しいひとの流れをつくる」という基本目標が掲げられています。こうしたなかで、貴社では、今後の人材確保に向けてどのような対応が考えられますか。（回答企業数：119社）

（単位：社）

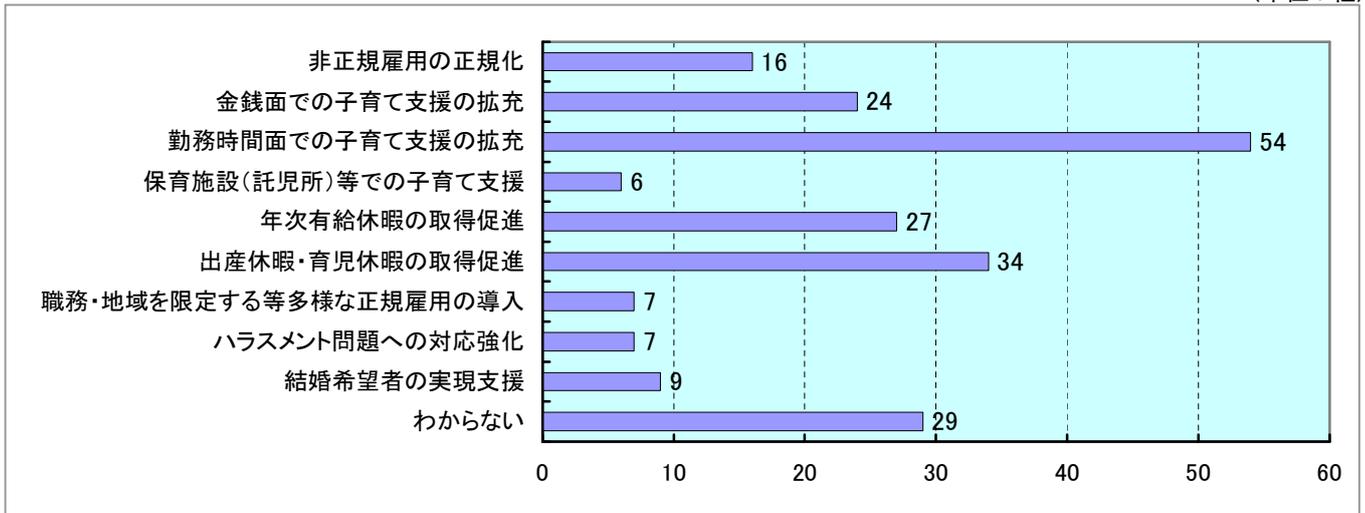


人材確保への対応については、「中途採用の拡充」との回答が55社（46.2%）と最も多く、次いで「新規採用の拡充」との回答が34社（28.5%）、「給与水準の引き上げ」との回答が25社（21.0%）と続いております。

業種別に見ると、建設業・不動産業で「新規採用の拡充」、「中途採用の拡充」、卸売業では「給与水準の引上げ」、製造業・小売業では「女性の活躍の場の拡充」と、それぞれ回答する割合が高くなっております。

◆「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」という基本目標が示されるなかで、貴社では、子育て世代に対応するため、今後の職場環境づくりでどのような対応が考えられますか。(回答企業数：119社)

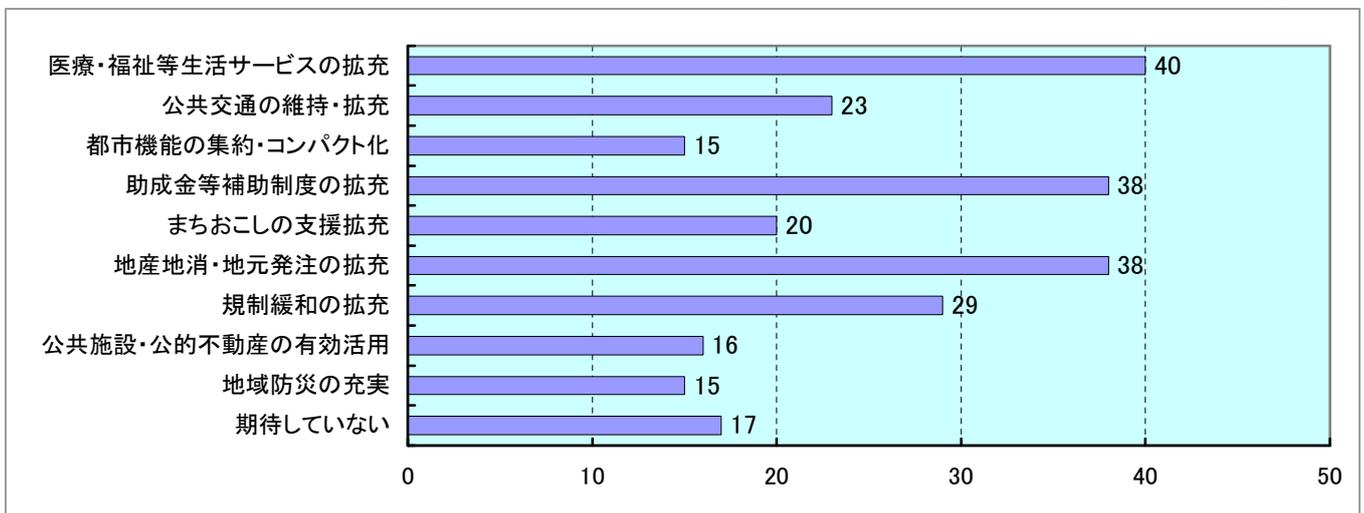
(単位：社)



子育て世代対応のための職場環境づくりについては、「勤務時間面での子育て支援の拡充」との回答が54社(45.3%)と最も多く、次いで「出産休暇・育児休暇の取得促進」が34社(28.5%)、「わからない」が29社(24.3%)、「年次有給休暇の取得促進」が27社(22.6%)と続いております。

◆「時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」という基本目標のなかで、地域の課題は地域で解決する観点からの各種施策が示されています。貴社では、こうした施策全般に対して、地元自治体にどのようなことを期待していますか。(回答企業数：119社)

(単位：社)

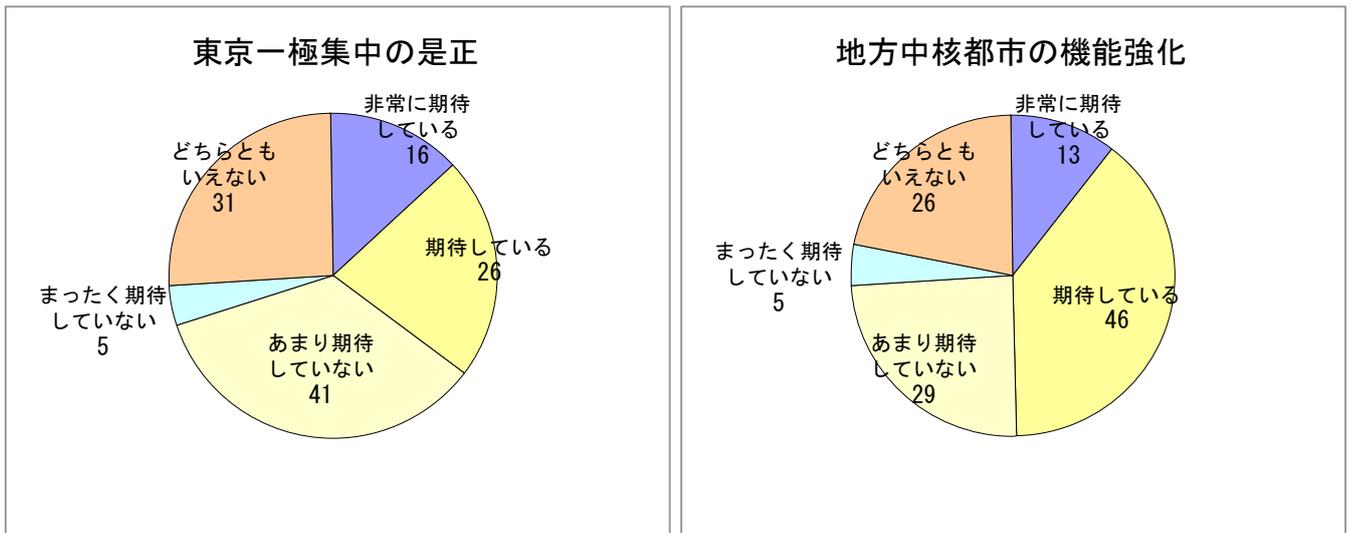


自治体への期待について、「期待している」と回答した企業が102社(85.7%)と「期待していない」と回答した企業の17社(14.2%)を大きく上回りました。期待の内訳としては、「医療・福祉等生活サービスの拡充」との回答が40社(33.6%)と最も多く、次いで「助成金等補助制度の拡充」、「地産池消・地元発注の拡充」との回答がそれぞれ38社(31.9%)と続いております。

業種別に見ると、製造業では「助成金等補助制度の拡充」、小売業では「医療・福祉等生活サービスの拡充」、サービス業・建設業では「地産池消・地元発注の拡充」の回答する割合が特に高くなっており、業種毎に期待している内容に差が出ております。

◆ビジョンと戦略では、「東京一極集中の是正」が大きな克服課題の一つとされるとともに、「地方中核都市」には大都市圏への人口流出を食い止める機能が期待されています。貴社では、これらに対してどのように受け止めていますか。（回答企業数：119社）

（単位：社）



東京一極集中の是正については、「期待していない」が46社（38.6%）と「期待している」の42社（35.2%）を上回り、地方中核都市の機能強化については、「期待している」が59社（49.5%）と「期待していない」の34社（28.5%）を上回る結果となりました。

東京一極集中の是正への期待感は薄いものの、地方中核都市の機能強化には期待している経営者が多いことがうかがえる結果となりました。

調査員のコメント

製造業

○消費税増税の影響で売上が前年比で減少しているものの、経費等の削減に努め、前年と同等の収益を確保している。海外での催事に出店する同業他社も増加しているが、当社はコストとリスクを考え、当面国外には出店せず、新商品の開発に注力し、国内市場での販売増加に努める方針。

（貴金属製品製造業）

卸売業

○輸入商品全般において仕入先からの値上げ要請が多く、また、顧客も商品注文を見直し、単価の低い商品にシフトしており、利益の確保に苦慮している。（食料・飲料卸売業）

小売業

○景気の先行き見通しに対して不安感があり、政府の政策に対しても期待できない。業況の改善のため、品揃えの改善等を検討している。（織物・衣服・身のまわり品小売業）

サービス業

○外部より人材育成の講師を招き、人材育成と従業員の適正人員配置を検討している。来年度は人員を削減し、利益を確保していく方針。(旅館、その他の宿泊所)

建設業

○消費税率が8%になって1年経過したが、その影響による材料価格の上昇に対して、請負価格が見合っていない状況が続いており、資金繰りが厳しい状況にある。(総合工事業)

不動産業

○人手がやや不足しており、新規・中途採用にて人材確保に取り組んでいる。前年比で売上に変化はないが、近隣市内で良好な商品物件が少なくなってきており、商品物件の確保が課題となっている。(建売業・土地売買業)

編集後記

このたびの中小企業景気動向調査におかれましては、皆様にはお忙しいなか、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

今回の調査では、業況判断DIが前期比0.9ポイント改善の1.7と、4四半期連続で改善となり、業況の回復を実感している経営者が少しずつ増えていることがうかがえる結果となりました。ただ、一方で、消費税増税による売上の低下や円安による原材料価格の上昇等により利益の確保に苦慮し、将来の先行きに対して不安感を抱く経営者も多いことから、来期の見通しについては、今期実績比6.7ポイント悪化の▲5.0ポイントを見込んでおります。

このような状況下、当金庫といたしましても、中小企業の皆様に積極的に支援していく所存ですので、引き続き当金庫をご利用いただきますようお願いいたします。